

プロジェクト課題活動実績

課題名：地域のロールモデルとなる経営体と新規栽培者確保に向けた生産組織の育成

下関農林事務所農業部 チーム員：荒瀬奈緒、品川由紀、中尾匡輝、林孝晴、河村剛英、古江寿和

<活動事例の要旨>

1 普及活動の課題・目標

施設園芸を主体とした集約的な農業が展開され、野菜や花き、果樹においては、県内有数の産地を形成する旧下関市西部地区において、世代交代や経営継承を志向する経営体に対し、法人化や雇用の活用、経営の多角化による事業拡大の意向等の将来構想を聞き取ったうえで、課題解決へ向けた伴走支援を展開することにより、地域のロールモデルとなる経営体の育成を目指す。

あわせて、産地における組織的な受入体制づくりを進め、ロールモデル経営体の活躍による経営継承や新規就業者確保の取組と連動することにより、産地の魅力向上と維持発展を目指す。

2 普及活動の内容

(1) 地域のロールモデル経営体の育成

経営継承を契機に法人化や雇用の活用、経営多角化による事業拡大の意向等を持つ2経営体を対象に、個別の課題解決へ向けた伴走支援を展開した。

伴走支援の際は、経営体に寄り添って意向を確認、関係機関とも連携して抽出した課題を整理し、解決に適した専門家を適期に派遣する等、きめ細かい対応を行った。

(2) 新規栽培者確保に向けた生産組織の育成

ア ブランドネギの経営モデルの再構築

JA 山口県下関ねぎ生産出荷協議会を対象に、新規栽培者確保に向けて、(ア)既存の生産技術の改善、(イ)経営指標の作成、(ウ)調製作業時間・労力の軽減策の検討を行った。

(ア)既存の生産技術の改善

実証ほを活用した土壌消毒の方法や回数の見直し、灌水チューブの活用、土壌分析結果(ハウス89棟の土壌フル分析)に基づく施肥改善等を提案した。

(イ)経営指標の作成

新規栽培者が安心して販売ができるよう、ネギの供給過多となる時期に安岡特産のエダマメを取り入れた、新規栽培者用経営モデルを作成した。

(ウ)調製作業時間・労力の軽減策の検討

調製場の作業量が限界となったため、新規栽培者のための新たな調整作業軽減策について部会と協議を重ねた。



イ 切り花球根の増加に対応した生産体制の整備

JA 山口県下関花き部会オリジナルユリ専門部を対象に、(ア)需要に応じた共販出荷体制の整備、(イ)新規栽培者の募集を行った。

(ア) 需要に応じた共販出荷体制の整備

出荷予測システムを活用して作成した出荷計画が、確実に実践できるよう、定期的な巡回指導を行った。

(イ) 新規栽培者の募集

JA下関統括本部が開催する「活き活き生涯ええ農塾」において、オリジナルユリとオリジナルリンドウの需要喚起及び新規栽培者の募集を行った。



ウ 新規栽培者確保に向けた柑橘産地の体制整備

下関柑橘組合を対象に、(ア)園地情報の整理、(イ)収益性の向上に向けた技術の検討を行った。

(ア) 園地情報の整理

QGISを活用した園地情報の整理を進めるとともに、経営者の営農継続や経営移譲等の意向を把握した。

(イ) 収益性の向上に向けた技術の検討

高い収益性が見込まれる“せとみ”の生産安定を目指し、寒害対策技術の確立に向けた試験ほを設置した。



3 普及活動の成果

(1) 地域のロールモデル経営体の育成

伴走支援を行う1経営体において、専門家の助言のもと、法人化を含めた中長期計画が作成された。

(2) 新規栽培者確保に向けた生産組織の育成

ア ブランドネギの経営モデルの再構築

既存の生産技術が改善され、経営モデルが作成されたことにより、就農ガイダンス等における新規就業者募集が可能となった。

また、部会員が同行する生育巡回や、ハウス毎の土壌フル分析等を行うなど、生産者の技術課題の解決に積極的に取り組むことにより、部会員の結束が強くなり、生産意欲の向上や産地の維持発展に向けた意識の醸成が図られた。

イ 切り花球根の増加に対応した生産体制の整備

需要に応じた共販出荷体制が整備され、安定した出荷が可能になった。

これまでの対象範囲を超えて、オリジナルユリとオリジナルリンドウの新規栽培者を募集し、リンドウに関しては新たに1名の取組意向を確認した。この成果を契機に、今後も広く募集をかけることでユリの新規栽培者確保を目指す。

ウ 新規栽培者確保に向けた柑橘産地の体制整備

園地情報の整理に加えて現在の園主の意向を把握することにより、次年度以降の受入体制の検討を円滑に進めるための基本情報が整理できつつある。

4 今後の普及活動に向けて

活動2年目となる次年度は、主に「ロールモデル経営体の育成支援」「各部会における新規就業者の受入体制づくり及び募集活動」を行うこととする。